



「FIBA バスケットボールワールドカップ 2023」の 受入体制構築に向けた 地域円卓会議

バスケットワールドカップが沖縄にやって来る。
そのチャンスと受け入れ課題を確認しよう。

実施報告書

日 時： 2020年1月27日（月）18:00-20:30
場 所： コザ運動公園 沖縄市体育館 多目的室（沖縄県沖縄市諸見里2丁目1-1）
主 催： 沖縄市
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】「FIBA バasketボールワールドカップ 2023」の受入体制構築に向けた地域円卓会議



- 日 時：2020年1月27日（月）18:00-20:30
- 主 催：沖縄市
- 場 所：コザ運動公園 沖縄市体育館 多目的室
- 協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく
- 着席者数：10名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：54名（企業、自営業、行政、教育機関等）
- お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

宮里 大八（沖縄市経済文化部観光振興課 主幹）



バスケットワールドカップが沖縄にやって来る。 そのチャンスと受け入れ課題を確認しよう。

「FIBA バasketボールワールドカップ 2023」が、2023年にフィリピン、インドネシア、日本の3カ国の共催にて、史上初の取組として開催される。日本は、沖縄アリーナにて開催することが決定しており、予選ラウンドの2グループの8チームが20試合を行うこととなっている。「FIBA バasketボールワールドカップ 2019」は中国全土の8都市にて、総試合数92試合が開催され、16日間の大会開催期間中に会場に訪れた総来場者数が約80万人であった。そして、試合の放映は、190以上の国と地域で放映され、中国国内のみの視聴者数は予選ラウンド80試合でも23億人が視聴されていた。日本国内ではラグビーワールドカップ2019日本大会が観客動員数170万人を超え、大成功に終わっている。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでも多くの来場者やパブリックビューイングなども期待されており、今後、メガ・スポーツイベントが地域の活性化や成長産業として注目されている。今回の地域円卓会議では、3年後に開催される「FIBA バasketボールワールドカップ 2023」をどのように沖縄市内全域で盛り上げ、日本全国や全世界から来場される方々をどのように受け入れるかなど、関係者や参加者の皆様と一緒に検討する場としたい。

センターメンバー



安永 淳一
沖縄アリーナ株式会社
アリーナ統括室 施設運営責任者



金谷 康平
沖縄バスケットボール情報誌
OUTNUMBER
編集長



山田 一誠
一般社団法人沖縄市観光物産振興協会 事務局長



新崎 好子
沖縄市コザホテル組合 組合長



平良 由乃
株式会社プラザハウス 代表取締役社長



島袋 哲安
沖縄商工会議所
副会頭



宮里 好一
おきなわスポーツイノベーション協会株式会社
代表取締役

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- FIBA バasketボール・ワールドカップ 2023 の経済効果として、沖縄県全体で、約 62 億 7200 万円、沖縄市だけでも約 4 億 6900 万円が見込まれる
- 沖縄県内で見込まれる経済効果のうち、沖縄市は 10% も獲得できない見込みとなっている
- 2020 年 12 月に 1000 日前イベントを行い、500 日前、100 日前と行っていく
- 2019 年中国大会では、アジア人以上に欧米から多くの方が来ていた
- 中国の方に「沖縄は海しかない」と言われたことがあり、沖縄が海外の方に全然知られていないため、欧米、アジアの方々への告知が必要である
- 県内には、小学生対象のミニバスケが 300 チーム以上あり、一般のクラブチームは、リーグがいくつか乱立して立ち上がっている
- 10 日間 20 試合で、沖縄アリーナの収容人数が約 8000 人のため、1 試合 8000 人、延べ 16 万人、ファンゾーンを含めると、数十万人が街を歩くことになる
- 沖縄市コザホテル組合は、現在 12 ホテルが加盟し、食事提供できる客室 450 室、宿泊特化が 100 室あり、2023 年に向けて 1000 室を超える予定がある
- 駐車場が沖縄アリーナに足りないため、ライカムイオンとの連携など、交通全体の課題がある
- 警備のなかには、駐車場警備のほか、避難誘導、ボディチェック、周辺巡回など、1 日あたり数百人規模の警備員が必要と考えられる
- 警備体制として、今から、県内企業の JV、県全体で引き受ける体制を立ち上げる必要がある

視点の提供

- バスケ・ワールドカップが、急成長していることを早めに気付いて、活かしてもらいたい
- 本来、スポーツは、皆が一体になり元気になるものであり、アメリカではひとつの文化となっている
- プロスポーツとアマチュアスポーツは違いがあり、見てくださる方がいて、共感し感動し応援してくれて、最終的に収入にも結びつくのがプロスポーツである
- 体育館（ジム）は選手が第一で、アリーナは観客が第一。沖縄アリーナが、遠くて、少しお金がかかっても、観に行きたい場所になることが必要
- 沖縄には、冬の夜や悪天候時のコンテンツがないと言われるため、沖縄アリーナを観光といかに結び付けていくかが重要となる
- 沖縄のバスケは、米軍統治の影響を受け、他県とは違う歴史と文化があり、ホスト国の専門メディアとして、この島のバスケの歴史をまとめて発信する必要がある
- 本大会を通して、ショップやメディア関係などバスケ関連の産業構築ができていくのではないかな。また、沖縄アリーナができると、バスケットを通じたツーリズム、人の交流が出てくるのではないかな
- 海外へのプロモーションと地元の受け入れ体制をつくっていくことは両輪で、住民も皆でお金儲けする方法を考えることが必要である
- 世界中から、スポーツ選手、観客がくる中で、ホテルが提供する食事を大切にしており、郷土料理を提供したいと考えている
- フィリピン、インドネシアが国をあげて盛り上げてくるのが予想される中、沖縄市で開催することの不安が大きい
- 大会期間中の試合の前後、試合と試合や 1 日と 1 日の間の時間があり、10 分圏内、20 分圏内、1 時間圏内でどこをどう活性化するか、動線を点から面につくっていくことが重要となる
- 本大会のために、1 日 2.3 万人が来るとして、沖縄県、沖縄市をアピールするため、中心市街地への経済効果が出るような橋渡しを行うことや、沖縄の文化、歴史、自然に触れてもらう企画をする必要がある
- 本大会をどう評価をするかの指標がなければ、イベントを行って終わりになる。レガシーとして、イベント後にどういう効果を期待するのか設計が必要となるため、沖縄市が議論して、具体的な政策として、市民と協力し、目標を達成していければよいのではないかな
- 市民の熱をあげることで、冷静な計画と準備をすること、両方の視点が必要となる
- 沖縄のバスケ文化は、親子 3 世代、4 世代でリレーションされている。小学校で、世界、日本、沖縄のバスケの歴史を学ぶことができればと考えている
- ラジオで、沖縄のバスケの歴史をアーカイブしている。コミュニティラジオを活用して子ども向けの公開収録を行うこともよいのではないかな
- 市がファシリテーターとなって、世代ごと、ジャンル別の盛り上げ隊をつくり、それぞれでどう盛り上げるのか、コミュニケーションをとる機会を作ってはどうか

- SNS での情報発信を、すぐに取り組むことが必要だと思う。必要であれば、フォロワー数が多い方や職業として SNS を教えている方に協力してもらおう
- 沖縄アリーナと中心市街地をつなぐ動線をつくるためには、コンテンツを持っている方、商売している方などと結集して取り組まないといけない。部会が必要かもしれない
- バスケットの試合、コンサート、MICE の人の動きは違うので、ペルソナをつくって、どう当てていくか考える
- 全国的にアリーナを中心とした街づくりが行われており、評価も出ているのではないかと。他の地域で市民の評価がどうだったか参考にする必要がある
- 評価として、本大会をやった何が良かったか、市民の声を客観的に聞くことが必要。そのために、期待も聞いておくとういのではないかと
- コザ運動公園は 25ha、10 施設がある。中心市街地に誘導するか、コザ運動公園で全体的なイベントをして、色々な体験してもらいたいことも手ではないか。コザ運動公園を使い切りたい
- 本大会を通して、沖縄アリーナを中心にコザ運動公園を市民が行きたい場所にできるとレガシーになる。新しい使い方も生まれるのではないかと。スマート・ベニューとして期待できる
- 沖縄市体育館では、琉球ゴールデンキングスが毎週試合をしており、市内外から来た人へ、公園内、市街地への動線をいかにつくるか、今日から取り組む必要がある。3 年後の大会を通過点として、5 年後、10 年後をどうするかビジョンを含めて話し合いながら評価できればよいのではないかと

事例の提供

- 昨年行われたラグビー・ワールドカップでは、小学校での出前講座を行ったり、受け入れのための組織委員会をつくったり、4 年間かけて機運醸成をし、大成功した
- 広島のアリーナ・スタジアムでは、スタジアムのまわりを 50m ごとに売店、ブースがあつて、自然に回遊する仕組みを人工的につくっている
- 国際カーニバルでは、ゲート通りをコンテンツフェスにして、ゲート通りでいろいろなイベントを時間差で行い、ゲート近くまで歩いてしまう仕組みをつくった
- V・ファーレン長崎は、市街地の諫早からスタジアムまでの 2.2km の道のりが、おもてなしロードと言われており、300m ごとにブースを設置している。300m ごとだと次のブースが何をしているか見え、楽しく歩いてしまう仕掛けがある
- 沖縄と同じ規模で、世界一のグルメの町と言われるスペインのサンセバスチャンでは、シネマ、クラシックの世界規模のイベントが毎年行われており、ホテル、食べ物など体制が整っている。受け入れ態勢をつくるために参考になるのではないかと

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) ワールドカップ開催をホストすることは、今後の MICE の受け入れを通じてビジネスに繋げる重要な経験となる。人の動線とビジネス・交流の設計をシミュレーションし、まち全体に最大限の利益が地域に残るような座組と計画を。
- 2) ワールドカップ開催に向けて、子どもたち向けの啓発プログラムを組み、スポーツのもたらす学習効果の最大化を狙いながら、同時にアリーナや地域への愛着（シビック・プライド）を醸成していくべき。
- 3) ワールドカップ開催をきっかけに、運動公園やコザのまちの効果的な活用を議論し、より暮らしやすく楽しいまち沖縄市を再設計したい。ただし、目標となる評価指標も設定し、レガシーが引き継がれるような計画実行を行いたい。
- 4) 条件としては、様々なジャンルの市民とのコミュニケーションの設計が前提となる、できるだけ多くの市民の参画が叶う場作りを。

■参加者によるサブセッション

バスケットワールドカップが沖縄にやって来る。 そのチャンスと受け入れ課題を確認しよう。

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①課題

- ・アリーナ値段 入れるのか(手に入るか)
- ・上海大会 人気試合以外売れるのか(どの国がくるか)
- ・パブリックビューイング
- ・駐車場問題 (900 台)

②チャンスと受け入れの課題

1. ホテル: 中部広域を巻き込む 宿泊人数 > ベッド数 交通手段、会場まで
2. イベント アリーナだけではなく周辺でのイベント 出店の必要性
3. 駐車場問題 バス(シャトルバス)を活用し周辺駐車場連携
4. お金を落とす仕組み

10 日間で 20 試合

コザ運動公園の利用

- ・イベント期間中の活用
- ・エイサー祭りの同時開催

③

- ・認知に差がある…キーマンを！！
- ・子どもと大人と…SNS、パブリックビューイング
- ・広告とインフラ
- ・8 カ国の受け入れ
- ・2023 年以降の活用は？

④課題=FIBA 後

情報共有=協議会

→ NBA レベルを呼ぶイベント！ジャブ打て！言語 渋滞

チャンス、安永さん ジャーナリズム
メディア

⑤地元の人 日本戦、日本人 外から集まる

課題：埋まらないんじゃない

運動公園 60 万人/年

⑥米軍基地との協力

- ・カイロプラクティックを広めたい
日本国内でもあまり知られていない
バスケの街としての魅力を引き出す
- ・バスケの授業をする
- ・選手村を作る→後にホテル、ショッピングで活用
- ・10 日間、県民を休みにする

⑦一日、期間限定ではなく 365 日楽しんでも

らえるよう工夫が必要

☆具体的に何をしようか

⑧一過性ではない長く居てもら

コンテンツを増やして混雑の分散

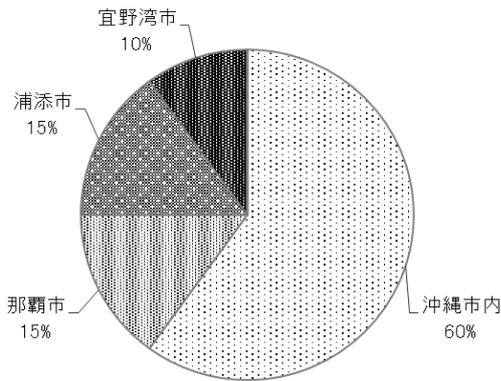
体感してもらえると良い 魅力が伝わる。

**「FIBA バスケットボールワールドカップ 2023」の受入体制構築に向けた
地域円卓会議
参加者アンケート集計**

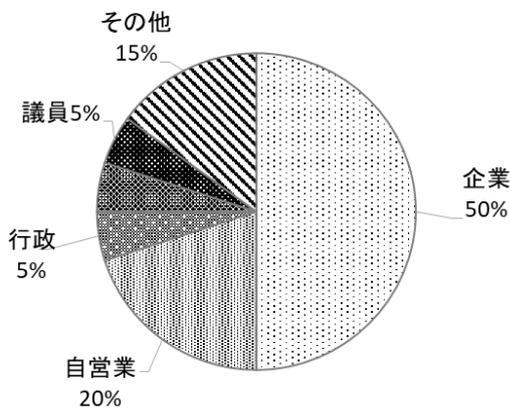
◆概要

- ・日時：2020年1月27日（月）18:00-20:30
- ・場所：コザ運動公園 沖縄市体育館 多目的室
- ・着席者：10名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：54名（アンケート回収29名、回収率54%）

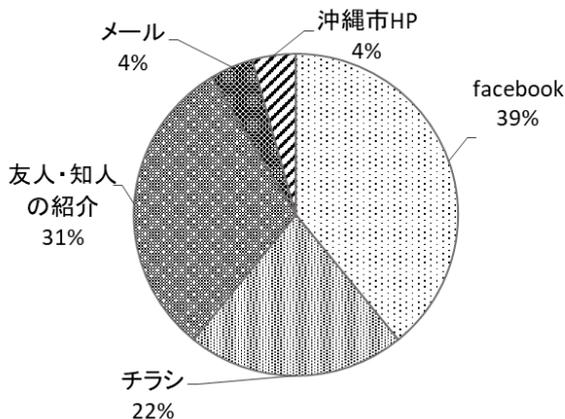
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.5（5点中）

5.満足	4.概ね満足	3.普通	2.あまり満足していない	1.不満足
13名	5名	1名	0名	1名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ さらに W 杯への興味が深まった。知識と同時に。
- ・ 色々な検討課題を聞くことができてよかった。
- ・ アリーナを活用した世界大会（スポーツ）に対応できるまちづくりの議論スタートとなった
- ・ 新たな視点で沖縄市を盛り上げる事柄について、考える機会となった。
- ・ どのような方々が興味を持っていて、どの程度情報を知っているのかが分かって良かった。
- ・ アリーナ、FIBA ワールドカップが楽しみになった。
- ・ FIBA ワールドカップの事はあまり知らなかったのですが、色々を知ることができただけでなく、いろんな方と意見を交わすことができて良かったです。
- ・ 異業種同士での課題を取り上げて、幅広い意見を聞くことができた。コミュニケーションが大事（地域円卓会議）
- ・ 色々な視点で考えていることがわかった（皆が）普段、駐車場や交通の問題しか言わないが、使い方に特化したことも良かった"
- ・ いろんな意見がきけた
- ・ この機会を増やして県民の意見でFIBA ワールドカップを盛り上げていく事で、県民で造っていくワールドカップが開催出来ると思う。

- ・ 市としてどう取組むのかを考えることが出来た
- ・ W 杯に向けてたくさんの人が課題を見つけて前進すれば必ず成功する

(4. 概ね満足)

- ・ 教育方面の話ももっと多く欲しかった
- ・ 様々な立ち位置の方々の意見を聞くことができ、とても有意義であった。議論の中でも出た「経済効果4億」「FIBAが目的ではない」という大きく未来的な視点と、現3000名の試合でパンクする交通インフラを8000名が来たときにどうになってしまうのか？という住民感情もあるのでは。そういった、現実的、冷静な議論ができれば！
- ・ バスケが好きな人間だけではなく、沖縄市に関わる人々の意見がきけて良かった。
- ・ この会議が今後どのように活かされるかが気になります
- ・ 参加型というのは良いこと！

(3. 普通)

- ・ 初めての機会であったので、多くの意見や考え方が聞けたのは良かった。市当局として、早めに方向性を明確にしていてもらいたい。その為の会議だとは思いますが、スポーツコンベンション活用として25年近くになる中で、コーディネートする人材を各部署（所）特にスポーツ分野に配置していけたら。

(1. 不満足)

- ・ テーマに対して、発言が浅かった感。市民向けなので、理解もしますが…

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 学校で世界、日本、沖縄、コザのバスケの歴史の話によって、バスケのファンの拡大が行われると考えます。
- ・ 子ども達がワールドカップの試合会場、又は同等の会場で試合を行えると良いです。
- ・ 米軍との協力は良いなと思った。みなさんのセッションはすごく参考になったし、面白かった。SNSを活用して市民の声を拾い上げ

たら、さらに面白そう！！

- ・ 「選手村（公金）」→民間の宿泊施設へ、は良いと感じる。
- ・ 誇りに思える取組（レガシー）を残そう！
- ・ 米軍基地との連携について、非常に興味を持ちました。
- ・ 沖縄市をバスケの街と一般の方にも知ってもらう事が重要というアイデア
- ・ 小学生への啓蒙はやりがいがありそう
- ・ 受け入れ先の“熱”、市民の“熱”をどう盛り上げていくか
- ・ 全て！
- ・ コザパークの新たな使い方
- ・ 嘉手納基地の活用
- ・ アメリカ基地を開催期間中に開放してもらおう
- ・ インスタグラムを使ってワールドカップをアピール
- ・ 市内のみならず県内各分野から多くの方が興味をもって集まり、関心の高さがうかがえたことは良かったのでは。アイデアは、多くあり、それぞれの考え方はとてもすばらしい。視察（中国）に行った方々の意見や感想を聞く機会等をつくって欲しい。その中で市の方針をしっかりと早めに打ち出すことが先決ではないかと思う。スポーツの専門家ももっとほしい。
- ・ 金よりも人、アイデア
- ・ 動けば成果につながります。
- ・ 民泊など、民間レベルの交流も行いたい。
- ・ 人生は居場所作り。

(写真) 会場の様子



